

1 学校教育目標

教育目標・・・自主協調をたつとび、素直明朗な人間性と強固な意志を育成する。  
 健康な身体を育成し、将来自己発展の基礎となるべき基本的知識を徹底的に修得する。  
 教えあい、競いあって一芸に秀で随所に主たるを目指す。  
 本年度目標・・・基本的生活習慣の確立(三原則の徹底)、学力向上の保証(習熟度別授業の充実)、部活動の活性化

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

- ①授業内容工夫、Classi定着(R5モノグサへ変更)、マナトレ活用、漢字テストへの積極的な取り組みで学力向上が必要。(R5学習端末導入)
- ②入学者増加については、在校生への教育を充実させ、広報活動を拡大し本校認知度を高め、受験生増加へと結びつけ、更に継続させる必要がある。
- ③生徒指導については、問題行動数は減少し、事件内容の質も改善している。しかしSNS等の表面化しにくい問題もあり、生徒状況の注視、教員間の情報交換などで早期対応の必要がある。
- ④進学指導については、ガイダンスが定着しているが、学力向上により1ランク上の進学率を向上させる。就職については、雇用状況の改善もあり、内定率は向上している。どちらの進路であれ、希望の道へと繋がるよう早期の意識向上、面接指導の徹底、関係機関・企業との連携を強化していく必要がある。
- ⑤各学年、重点目標に生活指導を設定して取り組んでいる。服装や挨拶は1年次は実践できているが、学年が上がるに連れ意識低下のため、継続的な指導の必要がある。学力についても進路指導と合わせて向上させていく取り組みが必要である。
- ⑥業務改善については、運営委員会について不十分である。計画的に工夫・改善をすすめていく必要がある。
- ⑦特定課題は転退学者数は減少しているため、これを継続し多様な生徒、保護者が多くなる中で、担任・学年・各部が連携し、学校全体で指導の徹底と早期の対応をしていく取り組みが必要と思われる。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

- 【基礎学力向上】Classi(R5モノグサ)、マナトレ、漢字テストなどを積極的に活用し、教育活動の充実、学力の向上をはかる。
- 【生徒募集】広報活動の活性化。説明会、体験入学等の内容の充実のため校内体制の充実。
- 【生徒指導】退学生をなくす。問題行動の減少。
- 【教育相談】相談体制の充実、早期対応。
- 【進路指導】進学実績、普通科の進学率向上。就職希望者への指導の徹底、求人開拓。
- 【学年指導】1年生を基礎として3年生までの継続的指導による基本的生活習慣の確立。
- 【業務改善】会議の計画的運営と関係係との連携。部活動の活性化。
- 【特定課題】生徒理解と保護者、生徒への早期対応による転退学生を減少。

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
総務	育友会総会の充実	案内配布 クラス毎の呼びかけ	総会の出席率 4.出席率80%以上 3.出席率60%以上 2.出席率40%以上 1.出席率40%以下	1	・新型コロナウイルス感染症への対策をとりながらも、小規模ながら総会を開催することができた。出席率は低かったが、対面による意見高官は有意義なものであった。次年度は、より規制が緩和され保護者も参加しやすくなるはずである。保護者が、足を運びたい総会(イベント等)になるよう工夫し、参加率80%以上を目標としたい。 ・総会参加率26%	参加者は少なく形式だけであったかもしれないが、開催したことは前身である。来年度に期待したい。	C
	学校案内の充実	学校案内の作成時期、および内容の充実	4.作成時期・内容ともに十分 3.作成時期・内容ともにほぼ十分 2.作成時期・内容いずれか不十分 1.作成時期・内容ともに不十分	3	・前年の反省を改善しながら作成。昨年同様行事の写真が少なかったが、各部署や様々な部署から写真を提供していただいた。今年度、実施できた行事も多かったため、来年度は更に良くなったモノを作成できると信じている。 ・昨年最安値であった業者をそのまま採用したが、当方からの意見を多くいただいたので満足いく仕上がりがであった。	中学校への説明会にも間に合い広報活動に活躍した。来年度は、スクール・ミッション等を明確に示した内容にしたい。	B
	広報活動の充実	マスメディアの活用 HPのリニューアル	4.十分達成できている 3.ほぼ達成できている 2.やや不十分である 1.不十分である	3	・ビジョン推進委員からの発案でテレビCMを流していただいた。ピンポイントでのCMも効果的であった。テレビ以外の新メディア(若者が目にする)も研究し積極的に発信したい。 ・HPリニューアルの効果は絶大であった。実際に志望理由にあげていた受験生もいた。操作性が各段にアップし、スタッフからの評判もよい。	CMは目に見える広報活動であるが、費用対効果はよくない。HPを中心としたネット広報に比重を置いた方がよい。	B

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
総務	オープンキャンパスの参加者の確保と充実	案内および規格の工夫内容の充実	4.十分達成できている 3.ほぼ達成できている 2.やや不十分である 1.不十分である	3	・昨年までは1回目(オープンスクール)申込を中学校経由で受け付けていたが、QRコードによる個人申込に変更した。中学校からも好評。 ・1回目のイベント内容を大幅に変更した。以前の区切られたタイムテーブルでなく、各イベントを同時開催とし、祭り会場を歩いて周るような演出にした。このイベントが志望動機の受験生もいた。 ・2回目(学習講座)の日程を8/26(金)にしていたが、中学校の2学期がすでに開始しており、急遽8/26(土)に変更した。次年度は、中学校の予定も調査しておく必要がある	すべての参加申込を中学校経由でなく、QRから個人でダイレクトに行った。中学校へは参加者報告をメール送信し、どちらの立場でも好評であった。来年度はHPからの参加申込も準備したい。	B
		参加者数の確保	4. 700人以上 3. 500人以上 2. 400人以上 1. 300人以下	2	参加者数 ①体験入学(8/6)・・・251名 ②体験学習講座(8/27)・・・149名 ③体験学習講座(10/15)・・・48名 参加者総数・・・448名(前年334名)+114	毎年のデータで、体験入学参加者の5割が実際に入学している。つまり参加者増が生徒数増につながる。	B
教務	コロナ禍における授業対応	オンライン授業の拡充	4: 達成できている 3: おおむね達成できている 2: やや不十分である 1: 不十分である	4	生徒のネット環境調査を行い、昨年作成したZOOMの資料を参考に行っている。教員も慣れてきたようだ。長期休養者や学級閉鎖を対象に行った。ただ、生徒はスマホでの受講になる、オンライン授業ではどうしても生徒の細かい様子が見えない、理解度は低くなる問題や、オンライン授業自体が出席扱いにならず成績処理も大変になるなど、制度自体の問題点は含んでいる。	国・県から出される感染症対応にも柔軟に対応している。しかし、オンライン授業は形式だけで質は低く限界がある。	A
	基礎学力の定着	(総務ICT係と共同で)事前に導入の情報収集。業者・端末・金額の選定。利用上の規則・保護者説明分の作成。端末の利用方法の講習や促し。	最終確認テストの各項目の結果がA~Dの4段階でA・Bの評価が 4 80%以上 3 70%以上 2 60%以上 1 50%以上	4	6月ぐらいから情報を集め進めてきた。業者の選定も数社の見積もりから一番良い業者を選び、何度か会議も行い、端末や金額も決めた。金額は他校よりはかなり抑えられていると思う。今までより有効に使えるアプリも導入予定。そのアプリの利用方法の教員講習も行い、授業での積極的な利用を呼びかけて、準備を進めているところである。アプリ以外でも各教科で端末を使った授業の展開を呼びかけている。	学習端末・サポートアプリの業者選定から導入スケジュールまで、何度も打合せされていた。その成果もあり、入学説明会において混乱もなく進めることができていた。	A
		ベネッセの「マナトレ」を導入し、「総合的な探究の時間」で「学び直し」を実施。3学期に確認テストを行い克服度合いを確認。	追試生徒の人数 4 20%以下 3 30%以下 2 40%以下 1 40%以上	4	総合的な学習の時間を利用して、丁寧な指導を毎年行っている。これにより、今年までの基礎学習の振り返りが行えている。提出が遅れる生徒が中にはいるが、担当教員はきちんとした指導は行っている。最終の確認テストも行うことができた。	成果は◎だが、そろそろ「マナトレ」に代わる新しい方法の検討に入ってもよい頃だと思える。	B
	資格取得	1・2学期に週1回、漢字検定対応のテキストをもとに漢字テストを実施。	追試生徒の人数 4 20%以下 3 30%以下 2 40%以下 1 40%以上	4	予定より少し実施回数が減ったが、毎回プリントを準備したり、成績不良者に対しての指導など、各学年よく対応はしている。以前に比べ、追試者は少数にとどまっている。	漢字検定へのチャレンジは良いが、週1回の漢字テストは他の教科に変更してもよいのでは。	B
生徒指導	問題行動の防止・是正	ポイント制による指導ポイントごとの指導の徹底 停学中の課題の充実 停学生徒への継続的指導	問題行動(停学)生徒数 4: のべ10名未満 3: のべ20名未満 2: のべ30名未満 1: のべ30名以上	4	今年度停学処分を受けた生徒の人数は、2名であった。内訳は、3年2名のみであった。ただし、問題行動での方向転換した生徒が1年1名、2年1名いた。生徒数も減少し落ち着いているせいか、昨年度よりも減少傾向にある。ポイント制による指導のため、累積で処分が重くなった生徒もいた。今後ポイント制によって、重くなる処分を改善するように考えていきたい。今年度は3年生しか停学生徒が出なかったが、卒業前に真剣に作業や課題に取り組み、周りの人に支えられて生活していることを再度実感していた。	大きな処分を出させない為にポイント制で抑止してきたが、生徒の落ち着きからその必要性が不要となりつつある。その時代に合わせ指導も変化する柔軟性が求められる。ただし根本を変えることなく。	A

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
生徒指導	健全な生活習慣の確立	挨拶の徹底 服装の徹底 授業開始時間を守る 遅刻・欠席連絡の徹底 遅刻・欠席届の提出	定着状況 4: 90%以上 3: 60%以上 2: 30%以上 1: 30%未満	3	挨拶に関しては、オリエンテーションなどを通じて指導をしているため全体的に良くできているが、場所によって差がある。服装に関しては、約8割以上の者が良好であるが、学年によって差がある。各学年の生徒指導係の先生方の服装頭髪規定の共通理解の徹底をはかり、ぶれない指導をしていく必要がある。また、最近ツーブロックに対する認識の違いがあるため、刈り上げてくる生徒が増えてきた。時代の流れに沿って、頭髪の規定に関しても考える必要がある。今後、服装頭髪や授業開始時間を守るなど、クラス間・学年間での温度差をなくしていく必要がある。	挨拶・時間厳守の習慣は、本校の躰教育の基本である。1年次に得た習慣は、2,3年の各行事でも活かされている。ただ遅刻・欠席の認識が担任によって差がある。これを修正しておかなければ、いづれ大きな不満へ発展する恐れがある。	B
生徒指導	自主性、リーダーシップの育成	立腰指導の徹底 学級委員のリーダー研修 生徒会主体の行事活動 部活動への積極的参加	4: 達成できている 3: おおむね達成できている 2: やや不十分である 1: 不十分である	2	コロナ禍の中で、立腰指導、生徒会活動など十分な活動ができなかったのが現状である。そんな中、文化祭は実施することができ、生徒会を中心に実施要項などを考え取り組むことが出来た。部活動に関してはコロナ禍前に戻りつつある。野球部に関しては旧小郡町の小学校と連携し、朝の挨拶運動に取り組んでくれた。	コロナの影響が大きく行事は不十分であった。実施可能な行事においても準備不足であった。野球部の挨拶運動参加はよいが、生徒会活動ではない。	C
進路指導	進学 ・進路意識を高める ・保護者、生徒の進学先理解を深める ・基礎学力の底上げ ・面接指導の強化 ・小論文指導の強化	・ガイダンス業者選定 ・「進路ガイダンス」や「総合の時間」を使って自主的に進路を考える ・「校内や校外ガイダンス」実施 ・進路指導室前「進学掲示板」設置 ・オープンキャンパス参加強化→保護者・生徒対象 ・学び直しの「テキスト」を使用し、基礎学力の再定着をはかる。 →ICTの活用(クラスシー普通科のみ) ・基礎学力試験の取り組み ・学年と共同歩調をとり、基礎学力学び直しの実施 ・課外授業の実施 ・eポートフォリオの活用 ・進学担当教員による「模擬面接」や「小論文」指導の実施	第一志望校への合格率 90%以上 3 80%以上 2 70%以上 1 70%未満	4	・全学年「さんぼう」を採用し、今年度は11月上旬から中旬に実施した。生徒の進路意識を高めることが出来た。今年度は新企画として2月に新たな試みとして「県内進学・仕事魅力発信フェアINやまぐち」に参加した。目的意識がある生徒は様々なブースに参加して意義ある行事になったと思われる。課題もあるので、次年度再検討する必要がある。進学指導部としては今後も「進路ガイダンス」を通じて自らの「進路」を考えるきっかけにしていきたい。2年前から進路指導室前にホワイトボードを設置して進学情報を随時掲示している。今年度はホワイトボードを追加した。同時に、オープンキャンパス等の案内は必要に応じて、担任にクラス配布または、掲示をお願いしている。 ・基礎学力を身に付ける点では、少しずつではあるが着実に学び直しに重点を置いて取り組んでいる。 ・大学入試制度の過渡期であり、ICT活用がより重要度を増してきている。ICTを有効活用し、より効率的なものを目指していく。 ・「面接」については、現状では十分とは言えない。古くは「総合の時間」を利用して行っていたようだが、近年は放課後に進学部長が面接指導仕上げを行っている。より効果的な指導にするためには、前任部長が常々述べていたように「進学面接に特化した指導のできる教員」を増やしていかなければならない。 ・入試で「小論文」が重視されている。普通科では課外で小論文講座を行っているが、結局は個別指導になる。面接同様進学指導が出来る教員を増やしていくことが急務である。きめ細かな指導をするためには、合理化の方向	外部主催のガイダンスを有効活用し、個別の面接指導を徹底。生徒の進路に対する意識を高め、個々に対応した取り組みが行われ、生徒が希望する進路の実現につながっている。課題としては、小学校→中学校と継続しているキャリア教育(ポートフォリオ)が高校で途切れている。中身は実施できているので、きちんと繋がった形に整える作業が必要である。	B
進路指導	就職 「学校斡旋就職内定率の維持」 「企業との密接な関係の維持・構築」 「求人数の確保」 「生徒職業意識の向上」 「全員内定の早期実現」	1.学年ごとの進路説明会(進路ガイダンス)の実施 2.県内外企業訪問の実施 3.山口県ごとセンターによるセミナー実施(3学年) 4.就職試験前の面接指導 5.厚生労働省によるガイダンス実施(2学年)	就職内定率 5 95%以上 4 90%以上 3 80%以上 2 70%以上 1 70%未満	5	全学年での進路ガイダンス実施や2年生3年生の早期面談を行うことができた。新型コロナウイルスの影響心配されたが、求人数は県内・県外とも昨年度より増加し、希望者全員早期に内定を獲得できた。県内・県外有力企業の求人獲得を維持し、内定率100%を達成できた。応募前職場見学参加率が過去最高となった。企業や外部機関との密接な情報交換を行うことができた。オンライン説明会・オンライン内定式(1社受講)を校内にて実施。	進学指導同様、内容は十分な取り組みがなされているが、整理がされていない。キャリア教育の流れを繋がっていると証明する作業が必要。	B

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
保健管理	生徒の心身の健康問題を早期発見・把握し、チームとしての対応を図る	生徒の検診結果や既往歴等の配慮事項について、全職員に周知徹底する。	関係職員は個別の健康配慮事項を教育活動へ活かす周知はできたか。 4 周知できた 3 概ね周知できた 2 あまりできなかった 1 できなかった	3	てんかん、アレルギー等の個別の対応が必要な生徒について対応マニュアルを作成し保護者に確認してもらい、学校管理下での救急体制を図った。生徒の健康管理状況は随時更新し、全職員と共有した。全てのデータは次年度の管理へ活かす。	概ね良好	B
	感染症の予防、学校環境衛生検査を通し、生徒等の健康の保持増進を図る	今年度は特に、感染症予防に特化した環境整備や衛生管理について整える。	感染症対応についての環境整備や衛生管理はできたか 4 できた 3 概ねできた 2 あまりできなかった 1 できなかった	3	新型コロナウイルス感染症における対応について、感染症対策委員会にて話し合い、学校医や学校薬剤師とも連携を取り、教員の協力も得て環境整備や衛生管理を整えることができた。また、感染症対策の備品を購入するなど環境整備を整えることができた。家庭での健康管理についても保護者に理解・協力を求め、毎日の健康観察についてはGoogleフォームを使用し、健康状態把握に努めた。	教員・生徒ともに毎朝検温し、その結果をGoogleフォームに入れることを習慣づけることはできた。	B
保健教育	自分の体をみつめ、大切にすることができる生徒を育てる	・健康に配慮を要する生徒の個別相談に努める。 ・保健だよりを発行し、健康に対する意識態度を育む。	生徒が相談しやすい雰囲気作り・体制を作ることができたか。 4 体制作りができた 3 概ねできた 2 あまりできなかった 1 できなかった	3	相談を受けた内容について、必要に応じて関係職員と情報共有をして対応を求めた。保健だよりは、職員向け、生徒と保護者向けを随時発行し、新型コロナウイルス感染症の学校対応について、情報発信をすするとともに、理解と協力を求めた。保健だよりについては、保護者に渡っていない場合もあるので、今後は学校ホームページに掲載して見てもらうことも視野に入れたい。	教育相談に行くまでもない軽度の相談(グチ)ができる場として機能している。問題の早期発見の入口として大切ではあるが、情報共有をする人間の判断が重要である。	B
教育相談部	気になる生徒・悩みを抱える生徒の把握と理解	相談窓口の案内 教育相談週間の設定 各種アンケートの実施 支援を必要とする生徒への継続的面談 教育相談週間の設定 成績不良者への学習サポート 月2回のSC来校	4:十分達成できている。 3:概ね達成できている。 2:やや不十分である。 1:不十分である。	3	支援・配慮を必要とする生徒・保護者への継続的面談および進路サポートは今年度も概ね達成することができた。成績不良者に関して、全学年の生徒を対象に学習相談(面談)に応じることが出来た。ただし、各学年での勉強会等に直接出席し教室での指導にまでには至らなかった。悩みを抱える生徒に対しては、スクールカウンセラーの来校を月2回に増やすなど切れ目のないサポートを行うことが出来た。しかし、相談してきた生徒へ適切な対応ができず、逆に生徒を悩ませてしまう事態もあった。このようなことが起きないように教育相談体制をしっかりと見直し、生徒に安心感を与えられる相談室にしていかなければならないと考える。なお、今年度の詳しい取り組み状況および評価と課題については別紙「令和4年度教育相談総括」にまとめている。	入学前からの対応(支援・配慮)で、早期に情報共有ができています。その後も随時アンケート等を実施し、悩みが大きくなる前に対応できている。ただ過剰な部分もあるため、それに期待する保護者もいる。適度な距離感が必要である。	A
	教員・保護者・スクールカウンセラーとの連携	月1回の部会実施および報告 保護者へのアンケート実施 月2回のSC来校と情報交換会の実施	4:十分達成できている。 3:概ね達成できている。 2:やや不十分である。 1:不十分である。	3	保護者に関しては、支援計画を持つ生徒の保護者だけでなく、悩みを抱えた生徒の保護者および子供のことで心配事がある保護者に対して直接相談に応じて連携をはかることができた。またスクールカウンセラーに関しても、今年度より月2回来校もらい、急な生徒からの相談へのカウンセリング対応や教員との情報交換の時間を十分確保できて良かった。しかし、教員に関しては、教育相談部として得た生徒・保護者からの情報をどの程度共有し、また、どの程度と部内で留めておくか判断に迷ってケースがあった。その際は、管理職の判断を仰ぎ、管理職の指示に従い対応すべきであると考え。なお、今年度の詳しい取り組み状況および評価と課題については別紙「令和4年度教育相談総括」にまとめている。	定期的なカウンセラー来校を上手く活用している。担任や関係教員への専門的な意見交換も効果的である。連携の面では十分できている。	A

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教育相談部	いじめの早期発見・早期対応	いじめを積極的に認知いじめアンケートの実施 いじめをレベル1で食い止める 生徒指導部との連携	4:十分達成できている。 3:概ね達成できている。 2:やや不十分である。 1:不十分である。	3	今年度のいじめの認知件数は9件(1年6件、2年3件、3年0件)であった。なお、9件の内、レベル1が7件、レベル2が2件であった。内容的には、悪口・陰口・暴力が多かった。レベル2のいじめの内、1件は、レベル1で発覚したいじめが十分に根絶できず、レベル2に発展してしまっただ。もう1件のレベル2は、被害者が転学をする可能性もあり、レベル3になりかねない状況があった。今年度も大半はレベル1で食い止めることができ良かったが、レベル1でも被害者、加害者に対して経過を見守ると同時に再発防止に向けた取り組みを強化する必要があると考える。なお、今年度の詳しい取り組み状況および評価と課題については別紙「令和4年度教育相談総括」にまとめている。	教育相談部としての対応は十分できている。早期発見・早期対応まではよいが、問題行動の関係上、生徒指導部にタッチされたあと、相談部の見解と異なる処分が出たりと、矛盾点もある。双方の意見を聞いた管理職が判断すべきである。	B
1年生	<生活指導> 新たな環境や生活にいち早く適応させ基本的な生活習慣を身に付け、落ち着いた学校生活を送れるようにする。	・オリエンテーションの実施→コロナ感染予防を徹底し本校に適應する能力を身につけさせる ・クラス単位での共通実践→学年全体で集まることが出来ないため、各担任がHRを使い学校生活向上に努める	4:4回以上実施 3:3回実施 2:2回実施 1:実施できず	4	コロナ禍の中、時短という形をとり5日間でのオリエンテーションとした。昨年は2グループに分けての開催であったのと比較をすると、よりスムーズかつ効率的であった。内容はしっかりと事前に調査吟味して立てた。今回は各部署別のオリエンテーションを組み込み、高校生活における意識付けをはかった。全校での集会等はまだ見送られたので、各HRにおける生活指導に重点を置き担任の方々には取り組んで頂いた。	前年度より可能な範囲が広がったため、学年としての指導も実施しやすかったと思われる。まだ縛りはあったが、十分である。	A
	<進路指導> 自分の現状をしっかりと分析し理解させ、基礎学力向上に努め、現実的な進路実現を図る。	全国模試の通年実施 (進路に関する意識付けの一環として、校内ではなく全国で行われる模試を実施)  進路ガイダンスの実施  業者の協力を得て効果的なガイダンスを実施する	4:学習活動の定着状況90%以上 3:学習活動の定着状況70%以上 2:学習活動の定着状況50%以上 1:学習活動の定着状況50%未満  4:すべての生徒の希望に対応 3:生徒の希望を75%達成 2:生徒の希望を50%達成 1:生徒の希望達成30%以下	2	普段の定期考査と評価は違うが、個々の学力値を知るのには十分活用できる。年間を通じた結果も出る事で、教科における個々の実力が数値化され、得意・不得意分野などが見て取れる。担任は数値化された一覧をもとに、進路指導に繋げてもらい、適正な進路先への誘導の1つにして頂きたい。2年生への橋渡しとしてもらう。  まずは自己分析の下、多種多様な業種について調査・研究に時間を費やす中で自分の希望する職業を選択させた。各分野の専門家にその業界の実働の姿を聞き、さらに職業探求と社会での貢献について学べた。2学期に1回の実施であったため、もっと機会を増やし意識付け出来た方が生徒目線からは必要と感じた。	マナトレやクラッシーと有料テキストを導入しても、担任の意識が高くなければ生徒に活用されない。特にクラッシーは授業管理でない分、クラス単位での差が出る。	C
	<全体的な指導> 「時間厳守」 「挨拶の徹底」 「服装の厳正」の実践	基本的な生活習慣を身につけさせて「凡事徹底」を目標に掲げ、今の自分に必要なことを自ら実践	4:全員の進級 3:原級留置の生徒なし 2:多くの生徒の進級 1:その他	3	本校の生徒として、なすべきことを自覚させ行動させる事が大きな目標である。年間目標に掲げた「凡事徹底」をオリエンテーションから各HRを通じて担任より伝えてもらった。一定の決まり事は守れるが、やはり応用編となると思考能力の差も感じ取れる。スマホについての利用方法や、それに付随するSNS問題など色々な課題も見られる。これは3年間を通して生徒には徹底していくべき課題であると考えている。	コロナ対策で制限はあったが、学年としての行事は実施できた。その中で人間形成の三原則を実践し、身につくよう努力している。	B
	<教員協力体制> 役割を分担する事で効率的に業務を遂行する	お互いの立場や業務内容を理解し、学年全体の視野をもち1人1人がカバー・協力体制を構築する	4:お互いに感謝しあひ作業できた 3:協力体制ができた 2:一部に協力が出来た 1:不満があった	4	多くの行事をこなしていく中で1学年教員間の協力体制は構築できていた。スタートのオリエンテーションでは、日々の担任の役割が大きく、副担の協力が欠かせない。支持するだけとならず、教員自ら、気付けて動く事の実践の場となった。教員も人であり力量や意識には当然ながら差は生じる。そこは学年全体での把握とカバーで補い、より良い方向へと導ければ必ずと生徒へも響いていく事と強く思われる。今年度は体育祭や文化祭と言った行事も復活し楽しくいい思いで作りととなった。	入学から行事の連続で大変ではあるが、その分教員間の連携が密となっている。この期間にチームとしての役割も形成され良い学年となった。	A

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
1年生	<教員協力体制> 役割を分担する事で効率的に業務を遂行する	担任を中心に学年全体が理解し協力体制を構築する	4: 担任の業務を全て代行できる 3: 積極的にHRの代行できる 2: 一部協力できる 1: できない	4	基本的には担任中心でクラス運営が遂行されている現状なので、不在時にはサポートでいどにとどまる。ただ、展開はスムーズであり、誰でもどのクラスでもしっかりと対応が出来、個々の能力が高いと感謝した。この1年生は人数も少なく、逆に色々と手がかける事も出来、クラス運営としては良い方向では無かったかと評価して	副担任に部長クラスのベテラン教員が配置されているため、カバー体制は十分であった。担任・主任は心強かったと思われる。	A
2学年	基本的な生活習慣の確立	・挨拶、返事、立腰姿勢を励行し、マナーと教養を身に付ける。 ・授業開始時間をはじめ、時間を厳守する意識をつける。 ・服装検査を各月に一回実施し、身だしなみを身につける。 ・授業態度にも重点を置き、きちんと取り組む姿勢を養う。	4: 達成できている。 3: おおむね達成できている。 2: やや不十分である。 1: 不十分である。	3	・部活生等、元気よく挨拶ができるものもいるが、コロナ禍の前と比べると全体的に大人しい生徒が増えた。チャイム前に先生が来られるので学級委員を中心に声をかけ着席させることができた。 ・時計をみて行動できる生徒を中心に、周りが引っ張られて行動している。 ・服装検査では、大きく逸脱している者はほとんどいないが再検査の者が目立った。、肩検査など継続して実施することが出来なかった。HR等を通じて日頃から生徒の様子を観察し、指導することが大切である。 ・授業態度に関しては、担任・教科担当を含め指導はしているが、能力が低い生徒、意欲不足などクラス内ではばつぎがあった。授業妨害する生徒はほとんどおらず、落ち着いて授業に取り組むことができた。	全体的には問題ないが、挨拶のできる生徒とそうでない者の差が出始めている。時間厳守の習慣は崩れていない。学習面はレベルの低い生徒の成長が見られない。学年としては良好。	B
	学校行事への取り組み	積極的に関わりを持つ。 ・星翔祭(10月) ・予餞会(2月→中止) ・修学旅行(11月東京) ・卒業式(3月→不参加)	4: 達成できている。 3: おおむね達成できている。 2: やや不十分である。 1: 不十分である。	4	・コロナウイルスの影響下ではあるが、学校行事等緩和され、2学年では修学旅行を実施することができ生徒が充実した旅行となった。 ・文化祭では体育館での合唱コンクールは実施できなかったが、各クラスが展示など積極的に参加し、クラスの目標ができた協調性・協力が生まれ、人間関係が構築された。	複数の陽性者が出てしまったが、無事に修学旅行を終えることができた。メイン行事が実施できたので、十分成果があった。	A
	卒業後の進路に向けて意識を高める	・自分の将来の意識を持つよう促す。マナトレの時間を利用して、自分の進路について考える時間を持ち、ある程度進路を決定させる。自分の長所等を見つけ、自己PRができるように指導する。 ・進路ガイダンス実施(11月・2月)	4: 達成できている。 3: おおむね達成できている。 2: やや不十分である。 1: 不十分である。	3	・クラス編成にも関わることなので、進路に関しては早めに考えるように促したが、まだまだ関心や意欲が低い生徒が多いように感じる。 ・マナトレの時間を使い基礎学力の定着、進路についての具体的な内容に取り組んできた。 ・進路ガイダンスでは、よく取り組んでいた。来客された学校への反応も良かったようだ。移動等も含め、積極的に動いていた。進学先においては、少しはイメージができたようだ。 ・進路決定に関して、今後自分が何をしなければいけないのかなど、目的意識を持って学校生活をしている生徒は少なく感じる。	「総合的な探求の時間」を通じて自身の将来を考えるきっかけを得ている。学年終了時には、進路選択が絞り込まれているので、来年度の取り掛かれがスムーズである。	B
3年生	社会人となる最終準備段階として生活習慣を含めた自己指導能力の確立	・服装検査を実施し、時と場にふさわしい服装への意識を高める。 ・挨拶指導、授業態度指導を通して、社会人としてのマナーを身につける。 ・健康観察を通して自分の体調を知り、健康的な生活を維持する。	4: 達成できている。 3: おおむね達成できている。 2: やや不十分である。 1: 不十分である。	3	・1~2ヶ月に一度服装頭髪検査を実施し、就職試験や進学試験時に好印象を与える服装について指導ができ、また生徒も理解し実践した。ただ内定後は、生徒によっては頭髪で注意を受けることもあった。 ・挨拶は比較的良くできていた。また、マナー違反で注意を受けることも少なかった。 ・健康観察は、平日はHRで担任が声かけをするためきちんとできていたが、休日は不徹底だった。“新しい生活様式”を踏まえ、社会人として自分の体調を知ることの大切さをもっと積極的に伝えられれば良かった。	大半の生徒は最終学年の自覚もあり、社会人としての規範意識も備わってきている。ただ若干名ではあるが、幼稚な思考の者がいる。その意識づけの多くを担うのはクラス担任であり、この力量差が生徒の自覚にも影響している。	B

評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
3年生	自己分析・情報収集し、自己実現に向けた計画的行動の定着を図る	・進路ガイダンスに参加し、情報収集をすると共に、就職面談・模擬面接などを実施して、進路実現を果たす。	4: 達成できている。 3: おおむね達成できている。 2: やや不十分である。 1: 不十分である。	4	・1学期に校外での進路ガイダンスを実施することで、進路決定の一助にできた。 ・就職指導部教員、就職指導員、進学指導部教員、学年教員の連携が取れ、受験までの流れもスムーズで、ほとんどの生徒が第一志望企業または第一志望校に合格できた。	進路指導部(進学・就職)の計画的な体制によって、全員が希望を叶えられた。常に最新情報を取り入れ生徒の自己実現をサポートしていただきたい。	A
業務改善	日常的な業務	協議事項を整理し、資料の活用等で職員会議を1時間以内で実施する。	会議時間 4: 80%以上の会議は1時間以内 3: 70%以上の会議は1時間以内 2: 60%以上の会議は1時間以内 1: 1時間以内の会議は60%以下	4	全職員にタブレットが配布されているので、会議資料が完全にペーパーレスとなった。 会議日の午前中に議題と資料が送信されるので、事前に内容が確認できている。その結果、質問内容も準備でき、スムーズな運営が可能となり、会議時間も短縮された。 効率がアップした分、急がない議題は次回へ回したり、伝達のみの内容は平日に送信したりと、不要な会議はなくす工夫もされた。 職員会議は、大きく改善された。	毎週木曜日を職員会議日として、年間行事にも記載しているが、その日に予定を入れる教員が目立ってきた。(クラブ顧問) これを許すと他のクラブや教員からの不満に発展する可能性がある。 再度、共通理解・共通認識をすべきである。	A
	職員会議の効率的な運営						
	学校の組織等	各校務分掌の責任者で構成する運営委員会を活性化し、学校運営を強化する。	運営委員会の活性化 4: 達成できている。 3: おおむね達成できている。 2: やや不十分である。 1: 不十分である。	3	通常の運営委員会(学期始め)に加え、新たに審議すべき議題等が発生したため、例年より回数が増えた。(特に入試関係) 運営委員全員が揃う日程調整は大変であったが、議題を溜め込まずその都度審議するスタイルは、結果的に全体がスムーズに動いた。運営委員の共通理解が、全体に影響すると実感した。	運営委員の活性化はできたと感じる。必要なタイミングですぐ開催できる方法が欲しい。 職員会議のように定期的な日を設けておいた方がいいのか悩む。(月1回など)	B
運営委員会の強化							
行事の反省	「Googleフォームで意見を収集」など新しい手段を取り入れ、次年度へ活用しやすくアレンジする。	行事反省・記録の提出 4: 全ての行事が提出されている 3: おおむね提出されている 2: あまり提出されていない 1: ほとんど提出されていない	3	「学校評価」「授業アンケート」「体罰調査」はGoogleフォームで実施できたが、各行事の反省提出を準備できず紙提出となった。 先生方の気づきは集められているが、少しでも負担を軽減させるために、来年は準備したい。	反省を提出される教員と、一度も出さない教員と意識の差が大きい。 紙でなく端末から気軽に回答できるようにしたい。	B	
特定課題	退学防止	進路変更も含めて退学者を減らす。	4: 10人以下 3: 20人以下 2: 30人以下 1: 40人以下	3	一昨年16人、昨年度12人、今年度12人と転学・退学者横ばい状態。 生徒指導上の問題行動による進路変更は少ない。メンタル的要因を理由に進路変更する生徒が増加。 中学時代不登校の生徒に機会を与える為、人物に問題がなければ入学させているが、好機に変換できない者もいる。 また、家庭の事情というケースも目立ってきた。	問題行動による進路変更は、校内の秩序を保つため必要な部分もあるが、実数としては極少数。 今後の課題としては、家庭及び精神的な理由による進路変更をいかに防止できるか、生徒指導より教育相談としての問題に比重が多くなる。	B
	入学者の増加	体験入学の参加数を増やし、受験する学校の候補となる。 そして実際に受験へとつなげ、複数受験した私学の中で本校が第1志望となる。 最終的に入学手続きしていただくまでを想像し、募集活動に努める。	4: 250人以上 3: 249人以下 2: 230人以下 1: 200人以下	1	昨年度入学者数は133名。 今年度は183名。目標の200名以上には届かなかった。しかし50名増である。 今年度力を注いだ体験入学と新しいホームページの反響が良かった。次年度は更に進化を加え、目標数を越えられるよう努力したい。	現在の募集活動は、総務部による広報、クラブ顧問による選手勧誘が中心である。 もっと学校全体で営業する意識改革が必要。 実業科は目標達成できているが、普通科の戦略を検討しなければならない。	B

## 6 学校評価総括(取組の成果と課題)

- ①授業内容の工夫、学期に1回のアクティブラーニング(各教科)、週末課題の定着、マナトレの活用取組向上。ICT活用のための人材育成。
- ②入学者の増加について、入学後の教育を充実させ現役生徒の広報活動を積極的に行う。PRするための本校教育の特色を再構築(躰・伝統・部活動以外の魅力の発掘)。スクールミッション/ポリシーの作成。
- ③問題行動減少のため、生徒の状況など、教員間の情報交換などで早期に対応していく取り組みが必要。新しい生徒像に必要な生徒指導を考える。
- ④進路指導についてはガイダンスの定着等も見られるが、進学率より学力を向上させることを主に考える。就職については早期の希望者全員内定を目指す。面接指導の徹底や関係機関・企業との連携を強化。
- ⑤各学年、重点目標に生活指導を設定して取り組んでいる。本校の教育の根幹である躰教育を行き届かせる難しさを感じる。学力についても進路指導と合わせて向上させていく取り組みが必要である。
- ⑥業務改善については、運営委員会について不十分である。計画的に工夫・改善をすすめていく必要がある。
- ⑦特定課題は転退学者数は減少傾向なので、あきらめずゼロを目標に取組む必要がある。保護者対応の難しさが顕著になってきているので丁寧な対応を徹底したい。

## 7 次年度への改善策

- 【基礎学力向上】クロームブック/Monoxerアプリ等、積極的なICT活用、従来のマナトレ/漢字テストの活用、教育活動の充実/学力の向上をはかる。
- 【生徒募集】広報活動の活性化。説明会、体験入学等の内容の充実のため校内体制の充実。
- 【生徒指導】退学生をなくす。問題行動の減少。
- 【教育相談】相談体制の充実、早期対応。
- 【進路指導】普通コースの進学率向上。就職希望者への指導の徹底、求人開拓。
- 【学年指導】1年生を基礎として3年生までの継続的指導による基本的な生活習慣の確立。
- 【業務改善】会議の計画的運営と関係係との連携。部活動の活性化。
- 【特定課題】生徒理解と保護者、生徒への早期対応による転退学生を減少。